

桜工



日本大学創立100周年

日本大学工科校友会

No. 70 1988

目次

会長就任の御挨拶	2
会長退任の御挨拶	2
私の学生時代	3
薬学部の独立に当って	4
「本学と米国マサチューセッツ工科大学との共同研究 プログラム成立について」	6
理工学部と中国西安冶金建築学院・陝西機械学院 との学術交流について	8
事務局からのお知らせ	9
産学協同研究への期待	10
チロル号計画	12
部会だより	15~18
土木・建築・機械・電気・工科	15~18
薬学・物理・数学・交通・精機	18~20
海建・航宇・電子	21~22
平山善吉先生「学位取得」祝賀の集い	23
クラス会だより	24~26
土木・機械・電気・工化	24~26
地方支部だより	27~29
秋田県・山形県・福島県・栃木県	27~29
群馬県・茨城県・埼玉県・静岡県	29~31
岐阜県・大阪府・愛媛県・佐賀県	32~33
長崎県・宮崎県	34~35
職域支部だより	35
正会員終身会費61年度納入者	39
地方支部職域支部一覧表	43



薬学部風景

薬学部の独立に当って

(設立の経緯と新学部の紹介)

薬学科教室主任 桐澤 誠

昭和27年に、高度の薬学的知識を修得した製薬技術者の育成を目的とし、理工学部(当時工学部)に、6番目の学科として、経営工学科と共に誕生した薬学科は、爾来35年、校友各位のご支援を得、すでに6,000余名の優れた薬学技術者、研究者を育て社会に送り出して参りました。

この伝統ある理工学部薬学科が、新しい時代の社会的要請に応え、本学100周年記念事業の一環として、大学本部をはじめとする全学、特に理工学部当局の深いご理解とご尽力のもとに、本年4月より、新学部として独立することになりました。

薬学部の発足に当って、以下、校友各位に学部独立の経緯と新学部の概要(教育方針と特色、その構成、設備等)をご紹介申しあげ、今後更なる薬学部へのご支援をお願い申しあげる次第であります。

〔薬学部独立までの経過〕

昭和27年、工学部に薬学科が設置された当時、薬学教育界ではすでに薬学の教育機関は単独学部とすることが合意されており、認可に当って、文部省当局から、口頭ではあったが「できる限り早い機会に薬学部に変更すること」を条件とされ、発足を見たのであります。

その後、昭和30年代に至り、本学薬学科設置当時の他大学医学部薬学科がすべて薬学部に変更されている中で、本学のみが未解決のまま今日に至っており、この間、文部省視学委員の視察に際し、独立した薬学部への昇格が望ましい旨、再々に亘って勧告されておりました。

加えるに、我が国の医療環境はこの間大きく変遷し、薬学教育の内容も医療薬学的傾向が重視され、さらに薬学教育の6年制も近い将来に実現する可能性が濃くなってきました。

かような背景から、昭和50年以來、大学当局に対し、

早急の独立を要請して参りました所、昭和55年1月本部に薬学部設置検討委員会が設置され、さらに理工学部内、また本部内に関連小委員会が発足し、以来、度重なる審議を経て、昭和60年5月の本部理事会において薬学部の開設が承認されました。

以後、昭和63年の開設をめざし、理工学部研究所による校舎の設計など所要の準備が行われ、昭和61年7月に文部省に学部の新設を申請、昭和62年2月4日には新築工事の起工式、追って、12月23日に文部省より、昭和63年4月開校の認可を受けるに至りました。

〔教育の方針と特色〕

人口の高齢化に伴い、医療分野における薬学技術者への期待は、新薬の創製や良質医薬品の供給など計り知れないものがあります。

薬学部は、この現代社会のニーズに応え、実社会に役立つ应用能力を備えた薬学技術者の育成、また今後、ますます重要視される地域医療において、その医療の一翼を担うにふさわしい高い倫理感を有する人材の養成を目的とした教育を行いたいと考えています。

このため、新設薬学部においては、次に掲げる特色を活かし、関係者の期待に応える教育と研究を進めて参る所存です。

第一は、我が国で最大の規模と伝統を誇る総合大学の中にあるという位置づけの活用であります。現代社会においては、あらゆる産業はもとより、学術分野においても、もはや単一学問体系の中では、その使命を全うすることはできません。

幸いにも、本学には、医学部、歯学部、農獣医学部など人の生命にかかわる多くの生命関連学部のほか、近代医療と密接に関連する電子機器などを探求する理工学学部、また、社会の発展、人間の育成にかかわる法学部、商学部、文理学部等の人文・社会系列の多くの学部があり、これらの学部と深く、幅広い交流から得られる研究、教育面のメリットを活かした教育と研究を目ざしたいと考えます。

第二は、現在の薬学は、社会の要請に応え、幅広い分野の専門教育が行われていますが、本学は、特に、生物薬学・医療薬学に重点をおき、医療に直結した薬学の実践を目指したいと考えます。

第三は、社会と直接かかわる薬事関係分野において

も、薬学科開設当時から他大学に先がけて設置された薬事管理学研究室（元経営学研究室、薬事経済学研究室）の活動のもとに、薬の法制度や薬業経済面の教育研究について一層の充実を図り、新たなる時代に対応できる秀れた技術者としての薬事政策マン、薬事経済マンの育成を図りたいと考えます。

〔薬学部の構成と定員〕

新設学部は、入学定員120名の薬学科と60名の生物薬学科の2学科で構成され、合計の入学定員180名は、現在の薬学科の入学定員と同じであります。

新設を機に、新たに機能形態学、臨床生化学、臨床薬剤学の3研究室を設け、改組したのを含め、従来の12研究室を15研究室とし、教育研究体制の充実を図りました。

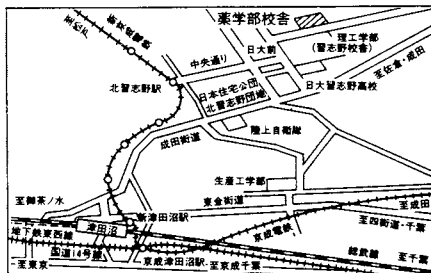
〔実験・研究施設の紹介〕

薬学研究は各種新鋭機器の駆使の世界です。

薬学部には、各研究室ごとに備えられた新鋭の器具、器械のほか、共同研究施設に時代の先端を行く大型分析機器（高分解能質量分析装置、フーリエ変換核磁気共鳴装置、X線回析装置、自動元素分析機、二波長白記分光光度計等）が備えられ、生物薬学の研究に欠かせない高速アミノ酸アナライザー、円二色性分散計、電子顕微鏡、超遠心分離機等も整備されました。また、アイトープ実験、動物実験等の研究施設が建設されました。

〔新校舎のご案内〕

薬学部校舎は、図に示す通り、現理工学部習志野校地の一隅（野球場跡）に位置し、理工学研究の基本設計によって、模型写真に見られるように近代的感覚の立派な校舎として新築されました。校友各位には、是非ともご覧いただきたく、近隣にお越しの節にお立寄り下さるようお待ち申し上げます。



〔卒業生の現況と校友会活動〕

理工学部薬学科の卒業生は、すでに32期に及び、その数は6,000名を超え、製薬企業に、医療機関に、行政機関にと広く社会で活躍しております。

これも一重に校友各位が培われた実績と御支援によるものであり、日頃より感謝申しあげる次第であります。新薬学部移行後も校友各位の強い御支援、御協力をお願い申し上げます。

ちなみに、最近の就職の概況（62年3月卒業生の就職分野と比率）は右表のとおりであります。

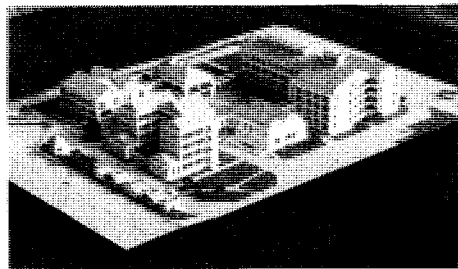
卒業後の主な就職分野と比率

医療関係 (病院、診療所、薬局)	35.6%
製薬企業 (研究、開発、試験、学術、営業)	29.7%
関連企業 (化粧品、食品、化学工業等の試験・研究)	7.2%
公務員 (研究、行政、病院)	3.6%
教育関係 (大学の助手、研究員、技術員、中・高校教員)	11.6%
進学 (大学院)	8.7%
その他	3.6%

一方、後輩の学生諸君も頑張っており、薬剤師の国家試験合格率も昨年は93.6%と全国の私大の中でも高位を示し、先輩に負けじと努力いたしております。

薬学科卒業生の校友会活動については、かねて、本誌「桜工」を始め、「桜葉会報」に紹介されておりますように、その母体である工科校友会・薬学部会（桜葉会）のお力添えにより、卒業生名簿の定期的発行、卒業生の就職・求人の斡旋、各種の記念行事、現役学生の支援など多彩な活動が行われており、日頃よりその活動には、深く敬意を表している所であります。

校友各位との連れ合いについては、今後とも一層密にし、新薬学部の発展にも繋がる校友会活動の充実について協力して参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



◎クラス会等に“桜工”をお送りします

——事務局までご連絡を——
電話 03-293-3251 内線206

【会誌委員会】

委員長 長江啓泰 (機械)	委員 伊藤堅 (機械)	委員 五十嵐正夫 (数学)
副委員長 南山 斉 (工化)	委員 井上暢之介 (電気)	委員 小西和夫 (交通)
副委員長 清岡進 (精密)	委員 長谷川明 (薬学)	委員 佐藤秀人 (海建)
委員 木村吉己 (土木)	委員 青木正忠 (薬学)	
委員 石山元雄 (建築)	委員 植松英穂 (物理)	

編集後記

昨年の役員改選により、上記13名が編集委員になり初の「桜工」編集作業となりました。部会便り、支部便り、クラス会便りと縦と横を結ぶメディアとしての「桜工」に対して、沢山原稿をお寄せ頂き感謝しております。

「桜工」も70号と区切りの良い号になりましたが、日本大学創立100周年と同時に、理工学部70周年を迎えようとしております。工科校友会も理工学部と共に、歴史を重ねてきており、今後とも紙面の充実・向上を図りたいと思っています。



日本大学創立100周年

本学創立100周年のシンボルマークが決まった。今後“桜門の輪”を広げる“使者”として、100周年記念事業に活用される。

全日大人から作品を募集。応募総数1513点について、2回にわたる審査の結果、校友の末光順子さん（昭和54年、文理学部心理学科卒）の作品が金賞に選ばれた。

昭和63年3月25日発行

発行所 日本大学工科校友会

編集・発行者 長江啓泰

東京都千代田区神田駿河台1-8

電話03-293-3251 内線206

振替 東京3-162710

印刷所 有限会社 ムサシノ 総合印刷